

	総会	計画部会		各分科会等
		委員からの意見	ヒアリングにおいて出された意見	
計画全体	<p>【構成や視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手段も大切だが、目的について議論が必要。また、言葉の使い方に注意(77、78)</li> <li>○ 教員など現場に身近なものとなるように工夫を(77)</li> <li>○ 各学校段階間の連携・接続について、分節化して課題を整理(77)</li> </ul>	<p>【構成や視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校段階間の連携・接続について、分節化して課題を整理(4、9)</li> <li>○ 次期計画につなげるということで現行計画の評価が大切(7、9)</li> <li>○ 前向きな表現などを入れ、自治体が読んで元気が出る計画に(8)</li> <li>○ 東日本大震災を契機とした社会の変化や教訓を感じさせるものに(9、12)</li> <li>○ 施策の様々な手立ての実行が成果につながるという循環を見えるように(9)</li> <li>○ 今後予想される危機的な状況が共有できるようなものにしてほしい(9、12)</li> <li>○ 「ゆとり」と「詰め込み」など、根幹の思いは同じなのに議論が分極化することがしばしば見受けられ、整理が必要(12)</li> <li>○ 国・地方(現場)の役割分担を明確にしていくことが必要(12)</li> <li>○ どの教育段階や政策を重視するかなどメリハリが大切(12)</li> <li>○ 実効性のある計画にするため、省庁間の連携が重要(12)</li> <li>○ 進学系と就職系を行き来できる柔軟な教育システムが必要(12)</li> <li>○ 「追いつき追い越せ型」社会から脱却し、新たな改革案を盛り込むべき(12)</li> <li>○ 国として必要な条件整備をしっかりと図っていくことを前面に出すべき(12)</li> </ul>		<p>【構成や視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員など現場に身近なものとなるように工夫を(生涯57、初中76、初中77)</li> <li>○ 次期計画につなげるということで現行計画の評価が大切(生涯57、初中77、生涯60)</li> <li>○ 生涯学習社会など、社会の有り様から議論を組み立てていくべき(生涯57、大学100、101)</li> <li>○ 国・地方(現場)の役割分担を明確にしていくことが必要(生涯60)</li> <li>○ 今後予想される危機的な状況が共有できるようなものにしてほしい(生涯60)</li> <li>○ 公教育だけでは解決できない課題も多く、私教育が重要(生涯60)</li> <li>○ 他省庁との連携が重要(生涯60)</li> <li>○ 生涯学習分野では、成功例を全国化させることが重要な国の役割(生涯60)</li> <li>○ 様々な課題の原因を探ることが重要(生涯60、大学101)</li> <li>○ 「子ども」ではなく「日本の未来の主権者」といった言葉を使えないか(初中75)</li> <li>○ 前向きな表現などを入れ、自治体が読んで元気が出る計画に(初中76)</li> <li>○ 「過去・現在・未来」の時系列の視点が必要(初中77)</li> <li>○ 関係者間の役割分担が適切に図られているか評価が必要(初中77)</li> <li>○ 各施策を横串で刺すような横断的視点が必要(初中77)</li> <li>○ 第1期計画と第2期計画をつなぐ考え方の整理が必要(初中77)</li> <li>○ 総花的・抽象的ではなく、重点化・具体化が必要(初中77、大学101)</li> <li>○ 現行計画の成果を評価するには、まだスパンが短いのではないか(初中77)</li> <li>○ 少子高齢化対策のために文部科学省が何を出来るかという視点が必要(初中77)</li> <li>○ 教育課程の中に4つの方向性を綿密に組み込ませ、今の勉強がどこにつながっているのか意識させる必要(初中77)</li> <li>○ 統一した方向性を表す原理(プロフェッショナルスタンダードなど)が必要(教員10)</li> <li>○ 具体的な施策の前提として、日本の未来を担う子どもをどのように育てたいのか、どのような力を身につけさせたいのか、という学びの姿を明記することが必要(スポ61)</li> <li>○ サステナビリティ(持続可能性)、バイオダイバーシティ(生物多様性)、エコロジーの3つは世界が目指す方向性であり、教育振興基本計画の策定においても念頭に置くことが必要(スポ63)</li> </ul>
	<p>【目標の在り方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現行計画の「今後10年間を通じて目指すべき教育の姿」は基本的に維持(77)</li> <li>○ 教育の目的について変えなければならないところもあるのでは(77)</li> <li>○ 目標として数字が入れられるものは是非入れてほしい(78)</li> </ul>	<p>【目標の在り方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題先進国の日本では人材に投資していくことが必要(4)</li> <li>○ 数値化が困難なものや数値化による弊害もあり、評価基準に工夫が必要(4)</li> <li>○ 成果目標の設定の仕方については施策に応じて検討する必要がある(9)</li> <li>○ 教育予算の必要性について、国民が納得できる議論が必要(12)</li> </ul>		<p>【目標の在り方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的方向性ごとに、大括りした政策全体のPDCAが必要(生涯59)</li> <li>○ 投資目標については是非盛り込んでほしい(初中75、77)</li> <li>○ 課題先進国の日本では人材に投資していくことが必要(初中76)</li> <li>○ 目標として数字が入れられるものは是非入れてほしい(初中76)</li> <li>○ 教育分野は成果の評価が馴染まない可能性があるため、別のかたちでの評価も検討が必要(初中77)</li> <li>○ 財政計画と教育計画をパッケージ化したうえで数値目標を打ち出す必要(初中77)</li> </ul>

生き抜く力		<p>【資質・能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主的に考えて行動する力が大切(4)</li> <li>○ 学力を支える力、人間としての器をどう培っていくかが重要(4)</li> <li>○ 東日本大震災から学んだ視点で再確認することが大切(8)</li> <li>○ 例えば、子どもたちが人のために汗を流すといった視点も必要ではないか(8)</li> <li>○ 学校教育が社会での成功と必ずしも結びついていない(9)</li> <li>○ 新しい学力観について学校段階ごとに達成状況を評価する仕組みの議論が必要(9)</li> <li>○ 「生き抜く力」の落としどころを共有すべきではないか(9)</li> <li>○ 臨機応変に対応できる能力が重要。どう評価するか議論が必要(9)</li> <li>○ 学力だけではなく、自信を持つこと等も生き抜く力に繋がるのではないか(9)</li> <li>○ キー・コンピテンシーなどの各能力の中身の関係性について整理が必要(9)</li> <li>○ 身につけるべき力の優先順位をつける必要がある(9)</li> <li>○ 受け身ではなく生涯にわたって能動的に学び「力」をつけていく必要がある(12)</li> </ul>	<p>【資質・能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校生の「志」を高めていくことが重要(10)</li> <li>○ 日本人に必要なのは「自立・自信・自由」。そして、「共感力、結束力、発信力」(10)</li> </ul>	<p>【資質・能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会人に必要な力は、学んできたことを能動的に説明できる力(生涯60)</li> <li>○ 新たな社会の担い手を育成するという観点が重要(初中77)</li> <li>○ 自主的に考えて行動する力が大切(大学100)</li> <li>○ 社会がどう変化しようとも対応できる力が重要(大学100)</li> </ul>
	<p>【初等中等教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員の社会的地位向上が必要。定年後の教員をどう生かしていくかも課題(77)</li> <li>○ 大学入試の在り方について十分な議論が必要(78)</li> </ul>	<p>【初等中等教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校の話が今は盲点に。高校を通じて何をやるのかを考えていくことが必要(4)</li> <li>○ 教員の質・量を担保するため、分業制など教員の働き方についても検討が必要(4)</li> <li>○ 高校生についても、学習時間が少ないなど課題が多い(8)</li> <li>○ 義務教育修了までではなく、実質的には高校の部分まで含めた保証が重要(8)</li> <li>○ 学力・意欲の差や部活動など高校生には様々な実態。望ましい姿の議論が必要(8)</li> <li>○ ICT活用による校務の負担軽減など先生方の多忙な状況に配慮が必要(8、12)</li> <li>○ 高大接続に対する厳しい指摘が必要(12)</li> </ul>	<p>【初等中等教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校の役割の明確化、特色化、差別化が必要(10)</li> <li>○ 高校・大学が連携し、今後の大学入試の在り方について考えていくことが必要(10)</li> <li>○ 高校教育の質を保証するために、高校制度の複線化か、質保証制度の強化が必要(11)</li> <li>○ 教員の負担が過大なものとなっており、塾などとの連携が必要(11)</li> </ul>	<p>【初等中等教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先生方の多忙な状況を含めて考えていかなければいけない(初中75、76)</li> <li>○ 義務教育費国庫負担制度の充実について議論が必要ではないか(初中75)</li> <li>○ 地域や学校の検証改善サイクルの充実(第三者評価など)が必要(初中77)</li> <li>○ エフェクティブスクールのようなものを見つけて要因を検証していくことが必要(初中77)</li> <li>○ 高校教育の役割や機能について議論が必要(初中77)</li> <li>○ 入試改革含め、高校と大学の連携が必要(初中77)</li> <li>○ 各学校段階で修得すべき事項を修得できていない生徒・学生は次のステップに進めない仕組みを検討すべき(大学101)</li> <li>○ 教員の資質能力向上を大きな方向性の中にきちんと位置づけることが必要(教員10)</li> </ul>
	<p>【大学など高等教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アクティブに学習をする若者を育てるため大学が変わらないといけない(77)</li> <li>○ 規範意識を持った人材を育てる観点から、高大の接続の議論が必要(77)</li> <li>○ 就活の早期化の問題など経済界とも協力が必要(77)</li> <li>○ 大学入試の在り方について十分な議論が必要(再掲)(79)</li> </ul>	<p>【大学など高等教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機能別分化の問題をしっかりと進めていく必要(4、8、9)</li> <li>○ 専門学校や高専等を含め、人材育成のための複線的な体制作りが大事(4、9、12)</li> <li>○ 高等教育について大学生の学習時間が少ないことなども含め厳しい評価が必要(8)</li> <li>○ 大学が様々な分化していることを踏まえて、大学の質を考えなくてはならない(9、12)</li> <li>○ 高大接続に対する厳しい指摘が必要(再掲)(12)</li> </ul>	<p>【大学など高等教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校・大学が連携し、今後の大学入試の在り方について考えていくことが必要(再掲)(10)</li> <li>○ 日本の大学は、授業のコマ数が多いこともあり、授業の密度が低く、授業から修得する度合いも低い(10)</li> <li>○ 職業・社会生活から大学への社会的なフィードバックが必要(10)</li> <li>○ 学部や学科が中心である現在の大学の教育ガバナンスの改革が必要(10)</li> </ul>	<p>【大学など高等教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学生のボランティア活動を通じた学習が重要(生涯60)</li> <li>○ 入試改革含め、高校と大学の連携が必要(再掲)(初中77)</li> <li>○ 学生など当事者の意見を聞くことが必要(大学100)</li> <li>○ 各学校段階で修得すべき事項を修得できていない生徒・学生は次のステップに進めない仕組みを検討すべき(再掲)(大学101)</li> <li>○ 学長がリーダーシップを発揮できる仕組みが必要(大学101)</li> </ul>
	<p>【その他の事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アナログとデジタルのバランスが重要(77)</li> <li>○ 学校教育において男女共同参画に向けた意識改革の教育が重要(77)</li> </ul>	<p>【その他の事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現場の意識を変え、取組を活性化させる方法を議論するべき(4)</li> <li>○ 県や市町村の新しい取組を国が支援することも必要では(4)</li> <li>○ アナログとデジタルのバランスが重要(4)</li> <li>○ 学校教育において男女共同参画に向けた意識改革の教育が重要(4)</li> <li>○ 小さい頃から職業の選択肢を多様にイメージできるような教育が大切(4)</li> <li>○ 国立だけでなく、私学に対しても手厚い補助をしていく必要がある(4、8、9)</li> <li>○ 少子高齢化の時代だからこそ、女性の力の活用が重要(8)</li> <li>○ 女性の社会参画についてはキャリア教育が重要(8)</li> <li>○ 学校・教育と福祉を連携していく体制づくりを計画的に進めることが必要(8、9)</li> <li>○ 減点主義から加点主義への転換が必要。PISA型がそれに近い(9)</li> <li>○ 多様な個性を活かしていくという方向性をもう少し強く打ち出せないか(9)</li> <li>○ 若者が何を拠り所として生きていくか、指針のようなものを出すべき(9)</li> <li>○ 子どもが早いうちから夢、大志を抱けるような環境醸成の視点が重要(9)</li> <li>○ 体験活動の充実について、学校教育が果たす役割は大きい(9)</li> <li>○ 幼少の頃からボランティア教育をするといった一歩先を見据えた教育が必要(9)</li> <li>○ 例えば「命の教育」など横断的なテーマがあってもよいのではないか(9)</li> <li>○ 「体力」についても検討が必要ではないか(9)</li> <li>○ 主権者教育を含む市民教育についても、盛り込んでどうか(9)</li> <li>○ キャリア教育や体験学習など様々な人と協働した学習が重要(12)</li> </ul>	<p>【その他の事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題を抱える子どもの親に対し、地域とのつながりをつくる必要がある(10)</li> <li>○ 教育と福祉の壁を越えて、様々な団体・機関と連携したチームをつくる必要がある(10)</li> <li>○ 女性、若者、外国人含め、眠っているパワーを引き出していく必要がある(10)</li> <li>○ 老人福祉施設で1年間就労することを若者に義務付けてみてはどうか(10)</li> <li>○ 協働作業に競争原理を持ち込む必要がある(10)</li> </ul>	<p>【その他の事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業の体験活動が重要(生涯59)</li> <li>○ 司書・学芸員の大学院での養成などを含め、生涯学習に関する専門職員の養成が重要(生涯60)。</li> <li>○ インクルーシブな社会をつくる学習が重要(生涯60)</li> <li>○ 市町村等への大臣表彰は大切(生涯60)</li> <li>○ 課題解決型の学習が重要(生涯60)</li> <li>○ 少子高齢化の時代だからこそ女性の力が重要(初中75、大学101)</li> <li>○ 防災教育・防災管理等を含め、地域の関係機関や団体等と連携した学校内外の安全確保が必要(スポ61・63)</li> <li>○ 多様な健康課題に対応するため、学校保健の充実が必要(スポ61・63)</li> <li>○ 地場産物活用促進など学校給食の充実が必要(スポ61・63)</li> <li>○ 栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育の推進が必要(スポ61・63)</li> <li>○ 青少年の体験活動推進の環境整備が必要(スポ61・63)</li> <li>○ 子どもの自主的な読書活動の推進が必要(スポ61・63)</li> <li>○ 青少年を有害情報から守るための取組の推進が必要(スポ61・63)</li> <li>○ 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備が必要(スポ63)</li> <li>○ 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進が必要(スポ63)</li> <li>○ スポーツ界における好循環の創出が必要(スポ63)</li> <li>○ 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実が必要(スポ63)</li> </ul>

生き抜く力		<p>【教育行財政制度等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今までの分権改革は基礎自治体などの基盤強化になっていたか見直しが必要(4)</li> <li>○ 教職員の人事権や教員定数、学級編成権等の中核市への移譲を検討してほしい(5、12)</li> <li>○ 教育委員会制度については、しっかりと議論を組み立てなくては、現場が混乱(8)</li> <li>○ 昨今の地方教育行政法の改正について、成果や課題の検証が必要(8)</li> </ul>		
未来への飛躍	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グローバル化の定義も人によって違う。前提条件について議論・共有が必要(77)</li> <li>○ グローバル人材は、どんな状況でも自分の見解をはっきりと述べることのできる人材。その前提として人の気持ちを理解するといった力が求められる(77)</li> <li>○ 国家的人材、エリートをどう社会に送るかを考えなければならない(77)</li> <li>○ 失敗を許さない日本の文化を変えなければならない(77)</li> <li>○ イノベーションには、人材の多様性、ものの見方の多様性が必要(77)</li> <li>○ ICTの効果的な活用やICTのサポート体制について検討が必要(77)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ イノベーションには、社会や産業を含め大人たちがどう変わるかが重要(4)</li> <li>○ 受け身の教育から能動的な教育、自立した教育関係者への転換が必要(4、8)</li> <li>○ 失敗を許さない日本の文化を変えなければならない(4、9)</li> <li>○ イノベーションには、人材の多様性、ものの見方の多様性が必要(4、9)</li> <li>○ 大学のグローバル化のために、秋期入学は面としてのよい取組である(7)</li> <li>○ グローバル化については、国内で様々な外国人と競争するという観点もある(8)</li> <li>○ グローバル化に対応する能力を誰に育成するのかといった戦略が必要(8)</li> <li>○ グローバル人材は、どんな状況でも自分の見解をはっきりと述べることのできる人材。その前提として人の気持ちを理解するといった力が求められる(9)</li> <li>○ エリート養成をしつつ、多様性も尊重する社会意識の形成が必要(12)</li> <li>○ グローバル人材育成のための各地方や学校の取組にも注目を(12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若者が海外に出て、外から日本を見る機会を増やすことが必要(10、11)</li> <li>○ 韓国に比べて日本の学生は遅れている印象。ある程度、スパルタ教育のようなものも必要(10)</li> <li>○ 海外に出て見聞を広げるため、大学生の休学を促進できないか(11)</li> <li>○ より早い段階から、第2外国語を学ぶようにすべき(11)</li> <li>○ 3割ぐらいの子ども・若者には、海外での生活経験を持たせるなど、グローバル人材を意識した教育を施すべき(11)</li> <li>○ 飛び入学、ギャップイヤーの一層の促進が必要(11)</li> <li>○ 大学での学びを充実させるため、先行内々定制度(1or2年生で内々定を出すとともに、課題を設定し、卒業時にそれがクリアされていれば正式に採用する)を設けてはどうか(11)</li> <li>○ 優秀な人材の発掘については、もっとスポーツ界に学ぶべき。特に、Jリーグのような手法(外国人を活用し、日本の良いところを見付けるとともに、地域に密着)は重要(11)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ラーニング・コミュニティをうまく動かせる創造性に富む人材の育成が必要(生涯57)</li> <li>○ 社会教育施設についても国際化や情報化が必要(生涯60)</li> <li>○ 掲げられた理念を実現し、評価する仕組みが必要(初中77)</li> <li>○ グローバル人材には、多様性の中でコミュニケーションする力なども必要(大学100)</li> <li>○ 幼児期や義務教育期からこういった視点の教育を行うことが必要(大学100)</li> <li>○ 能力のある者をさらに伸ばすための教育も必要(スポ61)</li> <li>○ 「グローバル人材の育成」にはスポーツ分野の人材の養成も対象として考えられる(スポ63)</li> </ul>
セーフティ		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公立学校の耐震化率100%や財政措置の拡大について盛り込んでほしい(5、12)</li> <li>○ 「学びのセーフティネット」は重要で、かつては日本の学びはそうだった(8)</li> <li>○ ベースラインを検討した上で、再チャレンジという文言も盛り込むべき(9)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各家庭や自治体をどう支援し、学びの条件を確保するかという視点が必要(生涯57)</li> <li>○ 教育・福祉・家族が連携し、履歴書も書けないような著しく学力の低い若者や高校中退者への社会教育が必要(生涯60)</li> <li>○ 生涯学習・社会教育における費用負担の在り方の検討が必要(生涯60)</li> <li>○ 生涯の各ライフステージごとの特質に応じた学びの機会確保が重要(生涯60)</li> <li>○ 家庭などに課題を抱える子どもに対し、学校を補完して補習などを行う仕組みが必要(初中77)</li> <li>○ 大学に関する公財政支出については、研究と教育とで分けて考えるべき(大学101)</li> </ul>
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一部の領域だけではなく、社会全体としての教育機能を見直すことも必要(77)</li> <li>○ 東京中心ではなく、地域差を踏まえた議論をしていただきたい(78)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来どういう子になるかを見据え、行政・学校・家庭・地域の関わり方を考えるべき(4、12)</li> <li>○ 地域で学校を支えることは、学校を核としてまちづくりを行うという根本的な変革。教員や市民の意識を高めていくことが必要(4、8、9、12)</li> <li>○ コミュニティに参画する意志や学ぶ意志のない人を誘導する仕組みが必要(8)</li> <li>○ 各家庭で見切れない部分をコミュニティで見てほしいというは少し違和感(8)</li> <li>○ 家庭の教育力向上方策について、検討が必要ではないか(8)</li> <li>○ 家庭の教育力は、家庭の経済状況などと深く関連しており、慎重に検討すべき(8)</li> <li>○ 家庭の教育力について、家庭の問題に手を突っ込むというのは非常に難しい(8)</li> <li>○ 家庭の教育に関して、大学等における一般教養等で扱うことができないのか(8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合型地域スポーツクラブの設置・充実を一層支援していくことが必要(10)</li> <li>○ 「地域をつくる学校づくり」という視点が重要(11)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校・家庭・地域の好ましい関係構築のための施策が必要不可欠(生涯57)</li> <li>○ 社会教育施設の司書や学芸員の高度な専門性を維持する方策について検討を(生涯57、60)</li> <li>○ コミュニティの維持には社会教育施設の役割大(生涯60)</li> <li>○ 著しく学力の低い若者を生み出さないためにも幼児教育や家庭教育支援が重要(生涯60)</li> <li>○ 多様性を保障する視点が大切(初中76)</li> <li>○ 大学も核となってコミュニティを活性化させていく必要(大学101)</li> </ul>

【凡例】 総会：中央教育審議会総会、計画部会：教育振興基本計画部会、生涯：生涯学習分科会、初中：初等中等教育分科会、大学：大学分科会、スポ：スポーツ・青少年分科会、教員：教員の資質能力向上特別部会

生き抜く力：社会を生き抜く力の養成、未来への飛躍：未来への飛躍を実現する人材の養成、セーフティ：学びのセーフティネットの構築、コミュニティ：絆づくりと活力あるコミュニティの形成